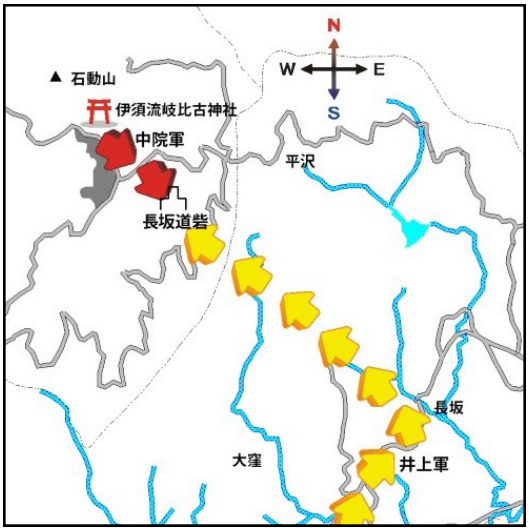
誉津石古戦場

長坂道の大日板碑から先が山内となる

合戦地：石川県鹿島郡中能登町石動山
対戦者：井上俊清 vs. 越中国司 中院定清
軍　勢：井上軍（北朝方）
　　野尻氏、長沢氏、波多野氏ら越中国人
　　中院軍（南朝方）
　　石動山衆徒
開始年：建武2（1335）年12月

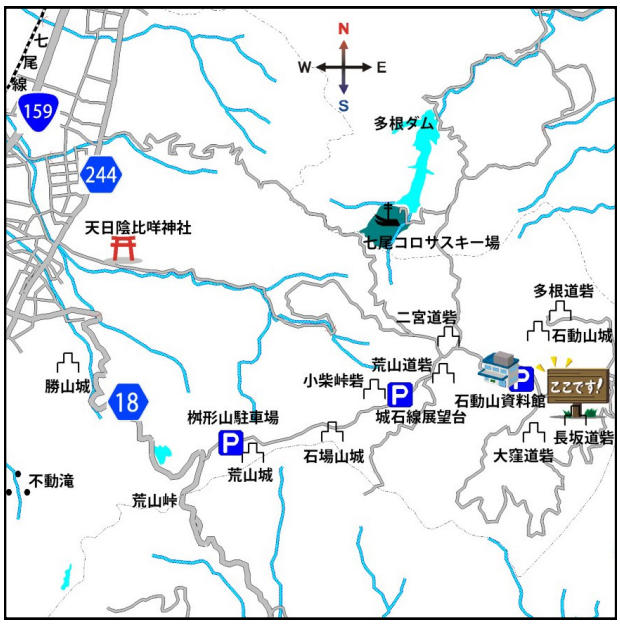
石動山の名が中世文芸の世界に初めて登場するのが軍記物の「太平記」である。建武２年（１３３５）１２月に起こった讃岐国（香川県）の細川定禅による後醍醐天皇への謀反に始まり、やがてその謀反は四国から中国、近畿、北陸へと拡大していったことが記される。



北陸では越中の守護・国人が、将軍足利尊氏の御教書を得て謀反を企て、国司中院定清を石動山に追って攻撃を加えたために、同山の堂塔は悉く兵火にあい炎上したと記す。

この南北朝期の石動山合戦は、太平記第十四巻「諸国朝敵蜂起事」に次のように記される。（一部を現代語に変換。括弧は補足）

『又その日酉の刻に、能登国石動山の衆徒の中より使者を立て申しけるに「去月（１１月）二十七日越中の守護、普門蔵人利清並びに井上・野尻・長沢・波多野の者共、将軍の御教書を以て領国の勢を集め、叛逆を企てる間、国司中院少将定清、要害について当山に立て籠らるる。今月（１２月）十二日彼の逆徒等、雲霞の勢を以て押し寄せる。衆徒等義卒に与し、身命を軽んずといえども一陣全うする事を得ずして、遂に定清戦場に於いて命を落とされ、寺院悉く兵火の為に回禄（炎上）せしめ畢んぬ。是より逆徒いよいよ猛威を振るいて、近日すでに京都に攻め上らんと仕り候。急ぎ御勢を下さるべし。」とぞ申しける。』



利清は越中の有力国人井上氏の出身で太平記は越中守護としているが、当時は能登守護の吉見頼隆が越中守護も兼ねていた。貞応３年（１２２４）の宣陽門院覲子内親王（後白河法皇皇女）所領目録には、石動山の属する上日庄が所領、石動山は祈祷所と記されていて、天皇家との関わりが深かった。また、当時父の中院定平が能登国司であったことが、とにかく定清が石動山を頼った理由と考えられる。定清戦死の地は焼尾の台地と伝えられ、長坂道砦のあたりとされる。

古戦場カードに関する最新情報・お問い合せ
北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）
〒929-0335　石川県河北郡津幡町井上の荘３－９
TEL. 076-204-6046　　FAX. 076-289-3943
E-MAIL. contact@j-sampo.com
ホームページ城郭さんぽ　**https://www.j-sampo.com/**

21.10.26.r1